

# 2009年度事業報告

2009 (平成 21)年 10 月 1 日から 2010 (平成 22)年 9 月 30 日まで

## <事業の総括>

今年度は、従来からの高校生の北タイ・スタディツアーのコーディネートに加え、ここ何年か懸案となっていた「モンゴルの聴覚障害児招へいプログラム」を実施し、日本とモンゴルの聴覚にハンディを抱える青少年同士の交流を実現することができた。

モンゴル障害者支援事業では夏の交流ツアーに合わせて、現地へ療育専門家を派遣し、使用済み子ども用車いす等 21 台の支援を行った。このほかに車いすについては、モンゴルに派遣されている協力隊員との協働で 55 台の支援を行うことができた。

タイについては、北タイの NGO・ルデラ(ラフ農村開発)と協力してミャンマーの研修農場支援を実施し、あわせて北タイ山岳少数民族ラフ族との交流ツアーを実施した。

事務局の運営、イベント支援、会員交流などにボランティアが活躍した。

## 1. 海外との協力事業

### (1) モンゴル障害者支援事業

#### ア. 療育専門家の派遣

理学療法士の吉濱信恒理事と事務局をモンゴルへ派遣し、ウランバートルとフブスグル県ムルンにおいて、車いすの適合を診たり、生活や訓練の指導を行った。

実施時期：2010年8月7日(土)～14日(土)

実施場所：ウランバートル及びムルン市(フブスグル県)

協力団体：障害児の親の協会、同協会フブスグル支部(ムルン)

実施結果：車いすの運搬、寄贈の管理、車いすの適合を診たり、生活・訓練の方法や周囲の接し方など指導を行った。

成果：今回は北のフブスグル県において、地方での障害児の療育について状況把握することができた。



障害児親の協会(ウランバートル)にて



同協会フブスグル支部(ムルン)にて

## イ．使用済み車いすの収集と配布

心身障害児総合医療療育センターにおいて君塚所長の声かけにより、使用済み子ども用車いす、工房椅子などが業者さんの協力で集められている。今期は、JICAのプログラムと8月の運搬の2回で合計76台の車いす、バギー等を届けることができた。

車いすの収集・管理・清掃・搬出

作業日数：9日、参加人数：のべ約25人

JICAの「世界の笑顔のために」プログラムを通じて

実施日：2010年6月（11月現地到着）

収集場所：心身障害児総合医療療育センター、  
及び埼玉県上尾市の会員宅(2009  
年6月より保管)

台数：55台(車いす49台、バギー6台)

配布先：第10治療保育幼稚園(30台)  
障害児親の協会(10台)  
パラリンピック委員会(5台/ス  
ポーツタイプ)

ウランバートル市シャスティン  
中央クリニック病院(2台)

ウランバートル市バガノール地区  
家族病院(8台)

配布場所：モンゴル国ウランバートル市他

現地協力者：多田羅千恵さん(協力隊員・第10治療保育幼稚園・養護)



障害児親の協会(APDC)  
からの感謝状

モンゴル交流ツアー参加者の手で

実施日：2010年8月7日

収集場所：心身障害児総合医療療育センター



障害児親の協会での贈呈式の後、ハイポーズ

台数：21台(車いす14台、バギー7台)、  
下肢装具4点

配布場所：モンゴル国ウランバートルおよ  
びフブスグル県ムルン

配布先：障害児親の協会(17台/車いす  
11台、バギー6台)  
シェアザジョイセンター(2台/  
車いす1台、バギー1台)  
モンゴル航空(1台)  
ワールドジュルチン社(1台)

現地協力団体：障害児親の協会、ワールドジュルチン社

現地協力者：青年海外協力隊員（佐竹裕美さん：国リハ・理学療法士、  
多田羅千恵さん：第 10 治療保育幼稚園・養護、藤原麻美  
子さん：同・言語療法士）、ソロンゴさん、ヒシゲさん

輸送協力：モンゴル航空、(株)エムジェイツアーズ

## (2) タイ、ミャンマー山岳少数民族（ラフ族）自立支援事業

### ア．ミャンマーにおける研修農場開設及び運営支援

25 万人といわれるミャンマー在住ラフ族の自立支援に寄与するため、  
支援プロジェクト「ビルマ・シャン州農援団」の事務局としてチェントウ  
ー市の研修農場(代表：ドナルド氏)と連絡をとり支援を行った。

協力団体：ラフ農村開発（代表：ダイエー・セイリ氏）

農援団第 3 回総会（支援者の集まり）の開催

日 時：2010 年 1 月 14 日（木） 19：00～20：30

会 場：明治大学アカデミーコモン 8F 社会教育課程室

議 題：現況報告、および 2 月の北タイ農援団ツアー説明会

参加者：11 名

2 月の北タイ農援団ツアーの後、

3 名が現地を視察訪問した。

コーディネイト役のダイエー氏  
との協議により今期中は、資金の  
移動は行わなかった。



ドナルド氏(左)とダイエー氏(右)  
後ろは建設中の堆肥小屋

## 2．海外の障害児者等との交流事業

### (1) モンゴル、タイ等へ研修・交流ツアーの企画実施

ア．『第 6 回モンゴル交流ツアー～障害児に車いすを届ける旅～』の実施

車イスの輸送・配布をし、障害児に関わる人々との交流および北モンゴ  
ルの大自然にふれるツアーを実施した。



障害児親の協会フブスグル支部の皆さんと

実施時期：2010 年 8 月 7 日(土)～14 日(土)

訪 問 先：ウランバートル、障害児親の協会、  
同協会フブスグル支部、フブスグル湖

参 加 者：3 名(1 名+派遣専門家+事務局)

結 果：訪問先が日本ではなじみのない場所であ  
ったことや募集期間が短かったこと  
等から、応募は学生 1 名のみであった  
が、車いすを届ける目的は達成した。

## イ.『北タイ農援団ツアー』の実施



正月踊りの輪に交じるメンバー



村のリーダーたちが語った研修農場でのシンポジウム

北タイの RudeLA(ラフ農村開発)とともに進めているビルマ・シャン州農援団の支援者、ニンジン会員に呼びかけ、北タイのラフ族の山の村に滞在し、雲南から来た彼らのお正月の祭に参加し、村の人びとと交流した。

期 間：2010年2月14日(日)～20日(土)

参加者：13名(うち現地参加学生5名)

内 容：チェンマイからチェンライへ移動。

RudeLA 代表者ダイエー氏の山の村に滞在。正月のお祭を体験、研修農場でシンポジウムに参加、子ども寮の視察、ミャンマーの国境の町タチレックを見学、ゴールデンライアングル周遊。

結 果：山の村に滞在し、新年の民族の踊りの輪に加わり、ダイエー氏の20年にわたる活動について、村の人々からも話を聞くことができた。50代、60代の参加者と、20代の学生たちが交流できたこともよかった。

## ウ.モンゴル聴覚障害児招へい交流

ろうと難聴の青少年グループ「ひよこっち」(代表：橋本一郎氏)と協力して、モンゴルの国立ろう学校から生徒および教員を日本に招へいし、日本のろう児・者との交流を行った。現地とのコーディネート、査証手続き等を担当した。

「ひよこっち」メンバーのモンゴルへの事前訪問のコーディネート支援

実施時期：2009年12月28日～2010年1月4日

訪問人数：8人

訪 問 先：国立ろう学校、テレルジ

結 果：校長からの強い要請を受け、招へい人数を増やすことになったが、自分たちの目で誰を日本に招くか決めることができた。

### 招へいプログラム

実施時期：2010年4月26日(月)～5月5日(水) 9泊10日

招へい人数：生徒男女各3名、教員2名 計8名

共 催：聴覚障害児グループ「ひよこっち」

協 力：都立中央ろう学校



生徒はおそろいの黄色キャップ  
都立中央ろう学校にて



ろう者の弁護士さんの話を聞く  
都民総合法律事務所にて



ハワリンバヤルのステージでは  
両国のろう児パワーで圧倒

内 容：都立中央ろう学校への訪問交流(3日間)、  
ろう者の働く職場見学(都民総合法律事務所、ホテルニュー  
オータニ、昭和大学病院、聴力障害者情報文化センター)  
「ひよこっち」メンバーとの交流合宿、ハワリンバヤル(モン  
ゴルの春祭り)でのステージ・パフォーマンス、  
東京、鎌倉見学、ホームステイ他。

結 果：自分たちの力でモンゴルのろう児を日本に呼びたいと、何年  
もかけて資金作りをしてきた『ひよこっち』メンバーの思い  
を実現することができた。当初5名の予定が8名の招へいとな  
った。来日中は橋本氏を始め「ひよこっち」メンバーがア  
テンドし、来日した生徒たちも積極的に行動し、手づくりの  
熱い交流が繰り広げられた。

#### エ．タイへ高校生のスタディツアー

順天高校が行うタイ修学旅行に協力し、北タイ滞在期間中にさまざまなハン  
ディを抱える人々と出会い交流するスタディプログラムの企画・コーディネート  
を行った。



メナム子ども寮で、料理したカレー  
ライスは子どもたちに好評だった

期 間：2010年7月24日(土)～8月1日(日)  
受入人数：生徒10名、引率教員4名、計14名  
内 容：<チェンマイ> HIV関連、ストリートチル  
ドレン関連施設の訪問・交流、象乗り  
<パヤオ> 私立高校との交流  
<チェンライ> 山岳少数民族ラフ族の村  
での生活体験、研修農場での体験ワーク・  
交流、子ども寮での交流

協 力 者：川口泰広氏(チェンマイ)

ダイエー・セイリ氏(チェンライ・ラフ農村開発代表)

結 果：タイの政治的騒乱があり、実施が危ぶまれたが、無事に実  
施することができた。今回は人数も適当であり、村にも  
泊まり、実のある交流となった。

### 3. 啓発事業

#### (1) 公開セミナーの開催

北タイの山岳民族ラフ族のリーダー、ダイエー・セイリ氏の来日にあわせて、彼が進めてきたルデラ(ラフ農村開発)のプロジェクトの報告と将来に向けての構想を語るセミナーを開催した。

日 時：2010年5月22日(土) 15:00～17:00

会 場：明治大学アカデミーコモン 8階  
社会教育課程室

テーマ：『北タイ焼畑、山の民の研修農場に未来はあるか』

講 師：ダイエー・セイリ氏

ルデラ(ラフ農村開発)代表

参加者：15名



### 4. 文化交流事業

#### (1) モンゴル文化紹介コンサートの開催

七夕の時期にチャリティコンサート「モンゴルの風」を開催。大勢の来場者においていただき、大変好評であった。ロビーにモンゴルでの活動紹介パネルを展示し、ステージからも現場の状況を報告し、活動への理解を深めていただくことができた。今回は、鑑賞団体である国際アービック協会の協力をいただくことで、初めてモンゴル音楽を聴く来場者も増えた。



日 時：2009年7月2日(金) 19:00～21:00

会 場：ルーテル市ヶ谷センター(新宿区市ヶ谷佐土原町 1-1)

出 演：バトオチル(馬頭琴)、ポロルマー(楊琴)

オトゴンチメグ(三味線)、ポルドーエルデネ(ホーミー)

エンフトゥヤ(舞踊)

来場者：180名(国際アービック協会 40名を含む)

(2) ハワリンバヤル（モンゴルの春祭り）実行委員会への参加

在日モンゴル留学生会が中心となり催されているモンゴル文化交流イベント「ハワリンバヤル2010」の実行委員会に参加し、モンゴルの留学生と交流を図った。今回ニンジンとして初めてブース出展を行い、活動パネルの展示を行い、活動紹介を行った。また、ステージで招へい中のモンゴルのろう学校生徒と「ひよこっち」メンバーが両国の手話の紹介や手話パフォーマンスを行った。

開催日:2010年5月2日(日)~3日(休)

場 所:東京都練馬区 都立光が丘公園

主 催:在日モンゴル留学生会/ハワリンバヤル2010実行委員会

後 援:外務省/駐日モンゴル国大使館  
/東京都練馬区

実行委員:吉濱信恒



モンゴルのろう学校生も来て賑わうニンジンのテント

5. 情報提供事業

(1) ニュースレター等の発行

- ・ニュースレター発行 1回(11月)
- ・ニンジン・アップデート(Eメール、Faxによる情報発信、月1~2回)

(2) ホームページ、ブログの維持、更新

ホームページおよびブログでの情報発信のほか、NPO/NGOの団体情報公開サイトへの登録情報を更新し、情報開示やイベント情報の発信を行った。

<主な団体情報開示ウェブページ>

日本財団公益コミュニティーサイトCANPAN

日本NPOセンターNPOひろば/Yahoo ボランティア

<登録募金サイト>

イーココロ/クリックエイド(携帯)/募金箱(2010年新規)

(3) その他

ア. 武蔵村山市立第一中学校訪問学習の受け入れ(12月3日、中学2年生7名)

イ. 募金キャンペーンの実施

- ・「ひよこっち」第12回自主ライブへのブース出展(3/27,28)
- ・順天高校スponsoredウォーク(4/7、5/1)
- ・『世界一小ちゃい?!ミニ絵画展』(12/14~23)

## 2009年度 収支計算書

(特定非営利活動に係る事業会計)

2009(H21)年10月1日～2010(H22)年9月30日

### 収入の部

(単位:円)

科 目	2009年度 予算額	2009年度 決算額	差額 -	備 考
1 会費	530,000	447,000	83,000	
個人正会員	350,000	300,000	50,000	10000×29人(30口)
団体正会員	30,000	60,000	30,000	30000×2団体
個人賛助会員	120,000	87,000	33,000	3000×29口
団体賛助会員	30,000	0	30,000	
2 寄付金収入	750,000	905,100	155,100	
一般寄付		189,647		約20名
使途指定寄付		715,453		モンゴル車いす寄贈他
3 事業収入	5,760,000	3,045,027	2,714,973	
協力事業	0	0	0	
交流事業	5,400,000	2,578,027	2,821,973	
啓発事業	10,000	7,500	2,500	
文化交流事業	350,000	459,500	109,500	
4 補助金等	100,000	0	100,000	
5 その他	50	368	318	受取利息
当期収入合計(A)	7,140,050	4,397,495	2,742,555	
前期繰越収支差額(B)	1,022,314	1,022,314	0	
収入合計C(A+B)	8,162,364	5,419,809	2,742,555	

### 支出の部

(単位:円)

科 目	2009年度 予算額	2009年度 決算額	差額 -	備 考
1 事業費	7,101,000	4,327,461	2,773,539	
協力事業費	700,000	674,646	25,354	
交流事業費	6,150,000	3,386,604	2,763,396	
啓発事業費	10,000	7,062	2,938	
文化交流事業費	220,000	222,410	2,410	
情報提供事業費	21,000	36,739	15,739	
2 管理費	716,000	521,716	194,284	
給与手当	120,000	0	120,000	
会議費	16,000	2,200	13,800	会場使用料
什器備品費	15,000	0	15,000	
委託費	240,000	240,000	0	賃借料、光熱水費等
消耗品費	30,000	22,431	7,569	
旅費交通費	110,000	105,980	4,020	通勤定期代等
通信運搬費	120,000	101,490	18,510	
印刷製本費	50,000	32,955	17,045	封筒印刷、コピー代
諸会費	10,000	10,000	0	
雑費	5,000	6,660	1,660	振込手数料、研修参加費、
3 租税公課	0	3,000	3,000	
4 予備費	100,000	0	100,000	
当期支出合計(D)	7,917,000	4,852,177	3,064,823	
当期収支差額(A)-(D)	776,950	454,682	322,268	
次期繰越収支差額(C)-(D)	245,364	567,632	322,268	



## 2009年度貸借対照表

(特定非営利活動に係る事業会計)

2010(平成21)年9月30日現在


資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 流動資産		1 流動負債	
手許現金	188,164	なし	0
普通預金	379,468	2 固定負債	
郵便振替口座	0	なし	0
流動資産 合計	567,632	負債の部 合計	0
		正味財産の部	
2 固定資産		正味財産	
なし	0	前期繰越正味財産	1,022,314
		当期正味財産増加額	454,682
		正味財産 合計	567,632
<b>資産の部合計</b>	<b>567,632</b>	<b>負債・正味財産の部合計</b>	<b>0</b>

### 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人ニンジシ  
理事長 尾立勇夫 様

私たちは、平成21年10月1日から平成22年9月30日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、その結果、事業報告書、財務諸表等は、当該年度の業務執行及び全ての財産、その使途並びに当該年度末における財政状態を適正に表示し、合法かつ正確であるものと認めました。

平成22年11月30日

監事 谷口奈保子 

監事 菅原雄一郎 